

銅・アルミレポート

橋本アルミ株式会社取締役

橋本 健一郎



5月のアルミ概況及び6月の見通し (3)

■国内概況まとめ

◆自動車生産

生産動態統計によると、4月の自動車生産台数は、前年比+4.2%の63万5,619台。輸出は、前年同月比-2.8%の33万5,600台。

◆自動車販売

日本自動車販売協会連合会によると、5月の自動車販売台数(軽除く)は、前年比+0.9%の20万3,523台。

◆住宅着工戸数

4月の新設住宅着工は、持家、貸家、分譲住宅が減少したため、全体で前年同月比26.6%の減少となった。また、季節調整済年率換算値では、前月比42.0%の減少となった。

○新設住宅着工戸数は56,188戸

前年同月比26.6%減、3か月ぶりの減少

○新設住宅着工床面積は4,177千㎡

前年同月比27.6%減、3か月ぶりの減少

○季節調整済年率換算値では626千戸

前月比42.0%減、3か月ぶりの減少

◆アルミ圧延・押出品生産数

日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は、前年比+2.5%の14万5,081t。2か月連続プラス。

板類：〈4月〉145,081トン(2.5%)

〈3月〉144,564トン(1.4%)

輸出が好調

押出類：〈4月〉52,422トン(▲0.4%)

〈3月〉53,583トン(0.4%)

建設・自動車向けが横ばい

◆アルミニウム2次合金 同合金地金等生産実績

前年比 -6.2% 5万3,788t 3か月連続マイナス

出荷 -8% 5万4,727t 9か月連続マイナス

◆輸 出

新地金 -21.3% 247t

二次合金 -2.8% 961t

スクラップ -13.1% 3万1,253t

アルミ缶 +25.7% 6,445t

◆輸 入

新地金 +37.6% 10万5,853t

二次合金 +37.2% 9万4,015t

スクラップ +47.1% 1,050t

合金スクラップ +11.5% 7,289

■見通し

4月の自動車生産が前年比+4.2%。5月国内販売台数が+0.9%。販売、生産共に増加。国内生産の回復と北米需要の堅調が業界回復を牽引。

◆アルミ圧延・押出品生産数

合 計：14万5,081t(前年比+2.5%)

板 類：9万2,659t(+4.3%)→輸出が堅調

押出類：5万2,422t(-0.4%)→建設・自動車向け

◆アルミニウム2次合金 同合金地金等生産実績

生 産：5万3,788t(前年比-6.2%)

出 荷：5万4,727t(前年比-8.0%)

生産・出荷ともに減少、特に出荷は9か月連続マイナス。

■総 評

自動車生産・販売は、引き続き堅調だが、輸出には陰り。住宅着工は、急減速。今後の建設向け需要に懸念。アルミ圧延は、堅調な一方、二次合金は不振が続く。輸出は全般的に弱含み。輸入は大幅増加しており、需給バランスに注意が必要。

■スクラップ景況予想

流通(一次問屋)在庫は、LME価格が2,405ドルから2,445ドル台と上昇局面。

◆需 要：引き続き低調

メーカー在庫は、自動車・建設向けの需要が弱く、スクラップからの再生インゴット需要が伸び悩み。夏場は工場の稼働調整(例：盆前在庫調整)もあるため、短期的に買い控え傾向が強まる可能性。

◆供 給：やや増加傾向

4月のスクラップ輸入量は、前年比+47.1%(1,050t)と大幅に増加。建設・住宅着工の減少(前年比-26.6%)により一部需要減。自動車リサイクル経由の発生量は限定的。

■スクラップ景況予想

●LME予想

供給側の制約が価格を支える一方で、世界経済の減速懸念や貿易摩擦が価格の上昇を抑制する要因になる。

世界経済の減速懸念：世界的な経済成長の鈍化が需要に影響を与え、価格の上昇を抑制する可能性あり。

米中貿易摩擦：米国によるアルミ輸入関税(25%)が市場に不確実性をもたらしている。

●為替予想：141円~148円

短期的には円安圧力が強まる可能性がある。ただし、中長期的にはドル安・円高方向への動きも想定。

これらを踏まえた今月のアルミ価格は、2,450ドル~2,600ドル(セツル)との予想。

スクラップ購買価格に関しては、据え置きから10円上げを予想。